



医療法人社団 仁恵会

石井病院

人工透析ひ尿器科じんけいクリニック

Now

Vol.168

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2022.3

石井病院 診療情報 ～暮らしを守る医療「コロナ禍の心不全」～

一般社団法人 明石市医師会では、「暮らしを守る医療」として、会員の医師がそれぞれの専門分野に関する医療情報を分かりやすく解説する動画を配信しています。

この度、当院 副院長 梶浦孝之 医師による「コロナ禍の心不全」の撮影が行われ、下記の通り配信されましたのでご紹介いたします。ご興味のある方は是非ご覧ください。



循環器内科・内科

かじうら たかゆき

副院長 梶浦 孝之

▶暮らしを守る医療 第33回「コロナ禍の心不全」

動画配信中！

心不全とは、心臓が悪いために息切れや浮腫みが起こり、段々悪くなり生命を縮める病気であり、全国の患者数は約120万人とされています。また5年生存率はガンより悪く50%程度です。そのため、いち早く診断し、病態を解明し治療を行う必要があります。

心不全とそのリスクの進展ステージをお示ししますが、一般的にはステージAという段階の高血圧症・糖尿病・脂質異常症などの動脈硬化性疾患を有する方や喫煙・肥満の方などがステージBという心筋梗塞症や狭心症などの虚血性心疾患、左室肥大や自覚症状のない弁膜症などの器質的心疾患を有するようになり、息切れや浮腫みなどの心不全症状が出現し、やがて入退院を繰り返すステージCへと至り、その後身体機能はますます低下し、標準的な治療では治療困難な病態となり、終末期を迎えるステージDという経過をたどります。また、ステージBの段階から突然死を発症する可能性にも注意が必要です。

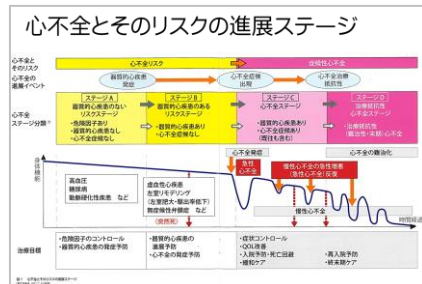
残念ながら各ステージは後戻りすることは困難であり、進行しないように努めなければなりません。ステージA・Bは心不全予備軍であり、心不全の発症を予防することが大切です。健康寿命を延伸し生活の質を向上させるには、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種による多面的で包括的なケアが必要です。

また、世間を騒がせている新型コロナウイルス感染症では、全身の炎症や血管内皮機能障害などから血栓を形成し虚血性心疾患を発症したり、直接的・間接的に心筋を傷害し心筋炎を発症することがあり、新たな心不全の原因となることが懸念されます。さらにコロナによる自粛からの身体活動量の低下や食事量の増加や不摂生などから生活習慣が悪化し、心不全の新規発症や増悪を来すことも懸念されます。

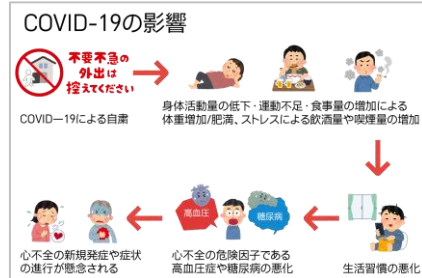
心不全予備軍の方もすでに心不全を発症されている方も、減塩・禁煙・節酒・適正体重の維持・規則正しい食生活・運動習慣を心がけることが大切です。自分がどの段階にいるのか不安な方は医療機関を受診していただき、必要であれば積極的な介入も受けられてはいかがでしょうか。

▶動画配信先

- ・ 明石市医師会ホームページ「暮らしを守る医療」
- ・ ジーオンインターネット放送局
- ・ YouTube 明石市医師会「暮らしを守る医療」



ステージ	特徴
ステージA	器質的心疾患の無いリスクステージ。個々の危険因子の十分な管理が目標 高血圧や糖尿病、脂質異常症、肥満などの危険因子を有するが器質的心疾患が無い患者
ステージB	器質的心疾患の有るリスクステージ。心不全発症を予防する事が目標 虚血性心疾患(心筋梗塞症、狭心症)や左室リモデリング(左室肥大・駆出率低下)無症候性弁膜症などの器質的心疾患の有るが心不全発症の無い患者 * 心不全発症... 労作時の息切れ/動悸/呼吸困難/下肢浮腫など
ステージC	器質的心疾患があり心不全発症を有するステージ(心不全ステージ) ... 症状のコントロールと入院予防と死亡回避が目標
ステージD	治療抵抗性心不全ステージ... 緩和ケアが主 概ね年に2回以上の心不全入院を繰り返す、標準的治療では改善しない病態





人工透析ひ尿器科じんけいクリニック

～ 新型コロナウイルス感染時の透析患者さんへ、2種類の薬剤治療可能に～

2022年2月20日、日本全国での一日の新型コロナウイルス感染陽性者数は71423人、重症者数は1495人でした。この爆発的感染拡大を背景に、リスクの低い一般患者さんへは自宅療養やホテル療養という名の医療放棄もやむなしとされ、一方で透析を受けておられる患者さんがひとたび新型コロナウイルス感染を発症した場合には、基本的にその全てがハイリスク群と考えられるため、原則的に入院での管理が大原則であるとされてきました。しかし昨今の情勢により、この鉄則までもが脆くも崩れ落ち、たとえ透析患者さんであろうと入院管理とはならず、結果的に無床診療所である我々のようなクリニックにおいても、自らの英知をフル回転させ、より積極的な問題解決策の推進に邁進せねばならない状況となってきております。このような状況下、我々は症状が軽度～中程度（酸素投与不要）である場合に有効とされる2種類の薬剤を、実際に投与可能なレベルまで緊急で環境整備致しましたため、ご報告させていただきます。



人工透析ひ尿器科
じんけいクリニック
院長
ふくし よしこ
福士 剛彦

一つは、ウィルスの作用を抑えるモノクローナル抗体、ソトロビマブ(商品名；ゼビュディ)です。これは昨年9月特例承認された点滴薬剤で、新型コロナウイルス表面にあるスパイク蛋白に結合し、人の細胞に侵入するのを防ぐ作用を持ち、少し前に発売された抗体カクテル療法（ロナプリーブ）とは異なり、ウィルスの中で特に変異の起きにくい領域に結合し作用することから、今回のオミクロン株のような変異株にも有効とされています（実際、抗体カクテル療法はオミクロン株への投与は推奨されないとされました）。発症から7日以内、酸素投与と不必要な初期の患者さんへ、1回のみ、30分程度で点滴静注することで入院や死亡を79%減らす効果が報告されています。問題は入院設備のある医療機関と綿密に連携して投与せねばならないとされる点でしたが、今の所は神戸市立医療センター中央市民病院様と連携させていただき、1日8人までという枠はあるようですが、同院にて日帰り入院（実質2～3時間程度）の形をとることで投与が可能となりました。

もう一つがウィルスの増殖を抑えるモルヌピラビル(商品名；ラグブリオ)です。これは昨年12月に特例承認された経口内服薬で、RNA依存性RNAポリメラーゼに作用することでウィルスRNAの配列に変異を導入し、ウィルスの増殖を抑制、発病5日以内、1回4カプセルを1日2回、5日間服用することで入院と死亡のリスクを30%程度減らす効果が報告されています。こちらはラグブリオ登録センターへの当院の施設登録が完了しましたため、他院を経由せず直接、当院外来で処方が可能となっております。

いずれの薬剤も透析患者さんへは通常の使用量で投与可能とされ、少なくとも重篤な有害事象の報告は今のところはないようですが、特例承認という文言からも推察されるように、承認時点においてデータは収集中であり、後に有効性や安全性が改めて評価される予定であるという点に関しては、今後も注視していかなければならないと思っております。

新型コロナウイルスとの闘い、もうかれこれ2年、いい加減にしてほしいという気持ちは私自身にもありますが、ようやく上記薬剤など人類の英知が形として結実してきており、その淘汰の日まで、もはや最終段階に入ってきているという情報も散見されるようになってきました。皆様、どうかその日を信じて、あと少しだけ頑張りましょう。

<p>ソトロビマブ (商品名；ゼビュディ)</p>	<p>ウィルスの侵入を防ぐ</p> 	<p>モルヌピラビル (商品名；ラグブリオ)</p>	<p>ウィルスが増えるのを抑える</p> 
<p>発症早期に投与 (1週間以内)</p>		<p>発症早期に投与 (5日以内)</p>	
<p>オミクロン株に効果あり</p>		<p>オミクロン株に効果あり</p>	

■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725
平日 9:00～12:00 14:00～17:00
土曜 9:00～12:00
担当 酒見 古門 上野

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院 広報委員会
〒673-0881 明石市天文町1-5-11
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>